

平成29年度「静岡大学地域連携応援プロジェクト」成果報告／公募説明会

静岡赤十字病院小児科外来壁画プロジェクト

Happy Hospital Project—たのしさが生まれる空間づくり—



2017.5.11 事務局別館1 A会議室

報告者:教育学部 高橋智子

教育学研究科 1年 石川千尋

教育学部 美術・デザイン専攻 3年 漆畑ゆず

【本プロジェクトの目的】

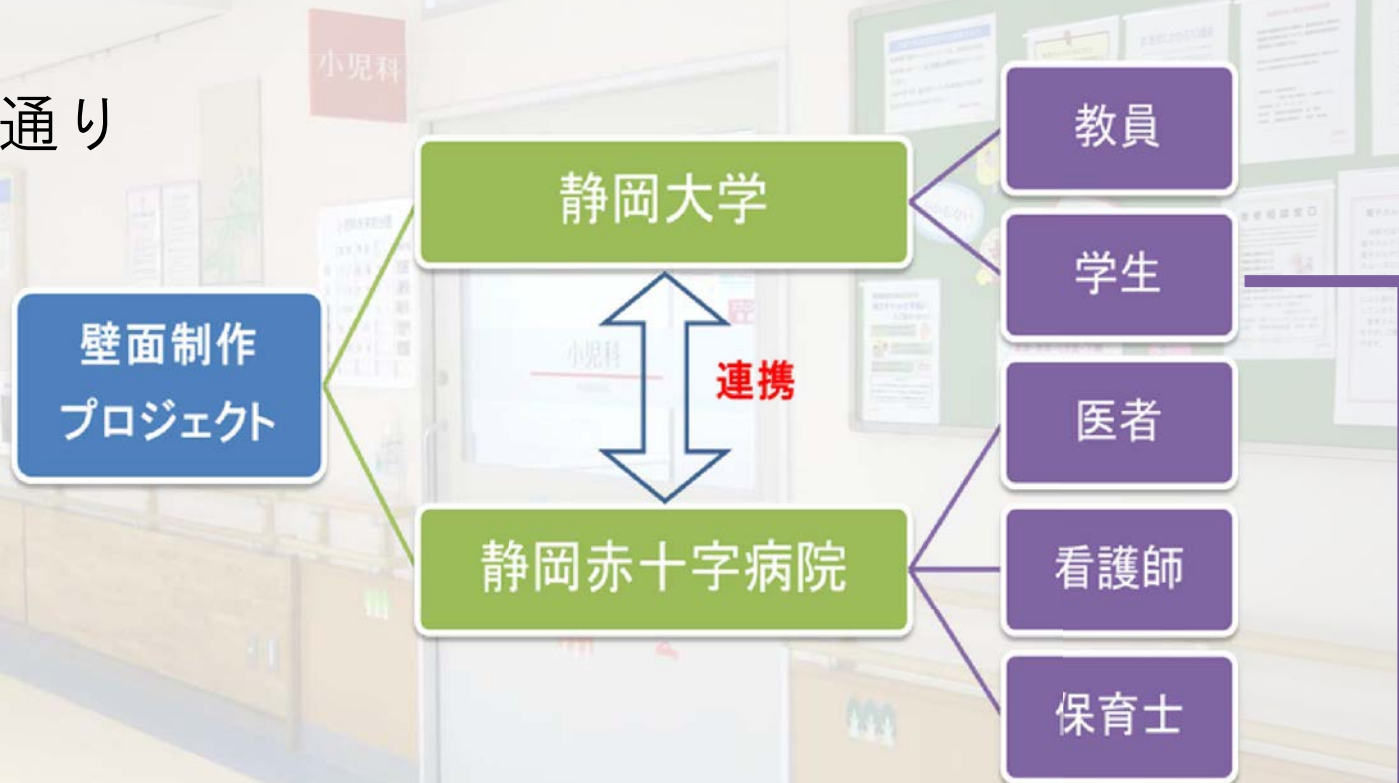
地域の病院と大学(教員及び学生)が連携し、子どもや保護者が安心して治療を受けることのできる病院(小児科外来)の治療・療育環境の改善及び整備を目指す。子どもや保護者の治療への心的負担を軽減すると共に、病院内の医療スタッフ(医療、看護師、保育士)の医療環境への悩みも加味しつつ、市民が利用しやすい病院の治療・療養環境の整備に取り組む。

【対象及び方法】

静岡赤十字病院・小児科外来の壁面制作

【組織】

以下の通り



静岡大学教育学部 美術教育及び美術・デザイン学生有志
教育学研究科 学校教育研究専攻 美術教育専修学生有志
地域創造学環 アート&マネジメントコース学生有志 約20名

【計画】

以下の①～⑦の通り。本プロジェクトでは、③～⑦を実施。

手順	内容	対象	時期
①	先行研究及び他施設の視察、静岡赤十字病院への視察	大学教員と大学生	平成27年度～平成28年3月
②	病院内の壁面制作アイデア検討	大学生	平成28年1月～7月
③	病院でのプレゼンテーション（3案）	病院スタッフ、大学教員、大学生	平成28年8月初旬
④	壁面制作アイデア決定及び修正	病院スタッフ、大学教員、大学生	平成28年9月-12月まで
⑤	壁面制作	大学生	平成29年1月～平成29年4月
⑥	静岡大学附属図書館での成果発表・パネル及びギャラリートーク	大学教員、大学生	平成29年2月
⑦	報告書作成	大学教員	平成29年2月中旬

→平成28年度「静岡大学地域連携応援プロジェクト」での取り組み内容

課題

● 現状分析からみえる課題

子どもは病院や
先生のことを
こわいと思っている

心的な不安を抱え
て病院に来ている

待ち時間を退屈に
感じてしまう

親子での関わりが
少ない

効果

壁面装飾を活用した空間づくりには・・・



不安な気持ちや緊張を解消することで

子どもの気持ちを安心させる効果が

期待できる。

目的

静岡赤十字病院の小児科を受診する子ども、保護者、病院を職場とする先生方の気持ちが少しでも明るくなるような空間をつくること。

•子どもにとって

病院の待合室という空間に対する従来のマイナスイメージを払拭することで緊張や不安をやわらげるための新たな空間をつくること

•病院で働くスタッフの方々にとって

明るく優しい気持ちになることで働きやすくなるような空間をつくること

コンセプト

「**たのしさが生まれる空間づくり**」をコンセプトとし、それを達成するための手だてとして以下のキーワードを提案

安心

relaxed

想像

image

つながり

communication

笑顔

smile

これらのキーワードを元に、たのしさが生まれる空間づくりを提案



安心

想像

つながり

笑顔

キーワード : 安心,癒し,コミュニケーション

コンセプト

涙が笑顔に変わる、心優しい空間を。

問題意識

- ・薄暗さを感じる待合室
- ・親子できても関わりがない
- ・不安を抱えて病院にくる子どもたち

課題への解決策

- ・明るく温かい空間づくり
- ・「あった!」と見つけて楽しむ構成

● 色

北欧デザインのコンセプトを参考に明るさを意識し、色から感じられる心理を考慮した。
→[緑] おだやか,くつろぎ [橙] ぬくもり,暖かい

● モチーフ

囲い線を使わずに線のゆるさを大切にしている。モチーフに動物を使用することで安心感や親しみやすさを出している。

● 構成

全体的にストーリーのような流れをもたせた。動物が生活をしている様子を描き、目で追ったり探したりして楽しめる空間を意識している。また、待ち時間に座っている位置を考慮し、向かいにワクワクするような表情をしたモチーフを多く入れた。

● コミュニケーション

全体的にストーリー性を意識し、親子での会話や病院の先生との会話が増えるような仕掛けを考えた。

● 安全

動物をモチーフにした磁石を大きく、形に丸みをもたせるなど、子どもたちに優しい形にする。また衛生面も考慮し、素材としてはラミネート等消毒拭き取れるようなものにする。

● 今後の可能性

いま小児科に通っている子どもたちが親になったときにも来たくなるような空間づくり。



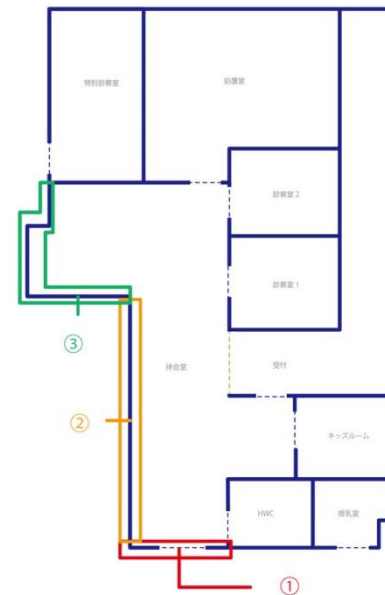
①

病院の扉ではなく、トンネルをくぐるように帰っていけるような構成。
動物が手を振っていて、涙ではなく、明るい気持ちで帰ることができるようにという願いを込めて。

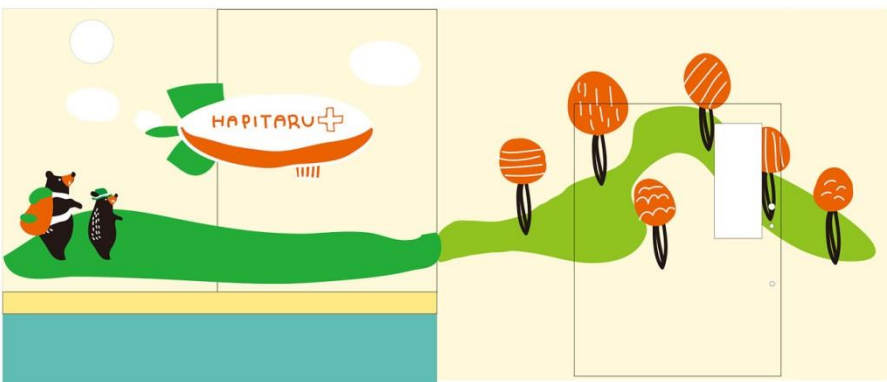


②

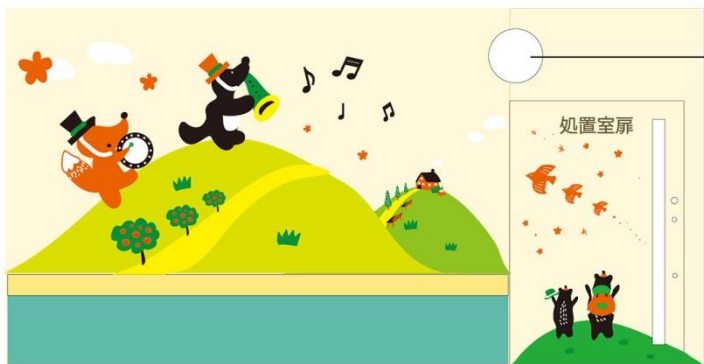
探して遊べるようにモチーフは小さく細かく描いている。



①

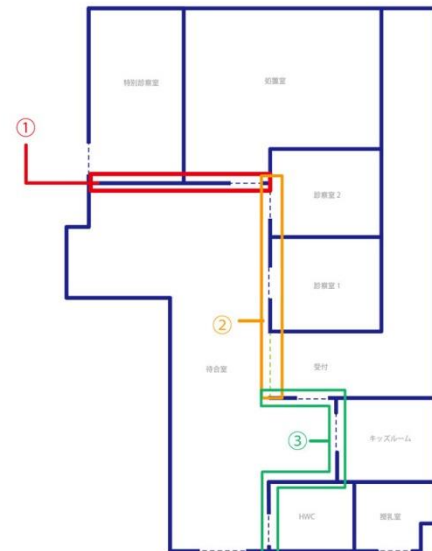


③



①

音のなる時計のため、
動物の音楽隊とリンクさせて
音と壁絵と一緒に
楽しめるような構成になっている。



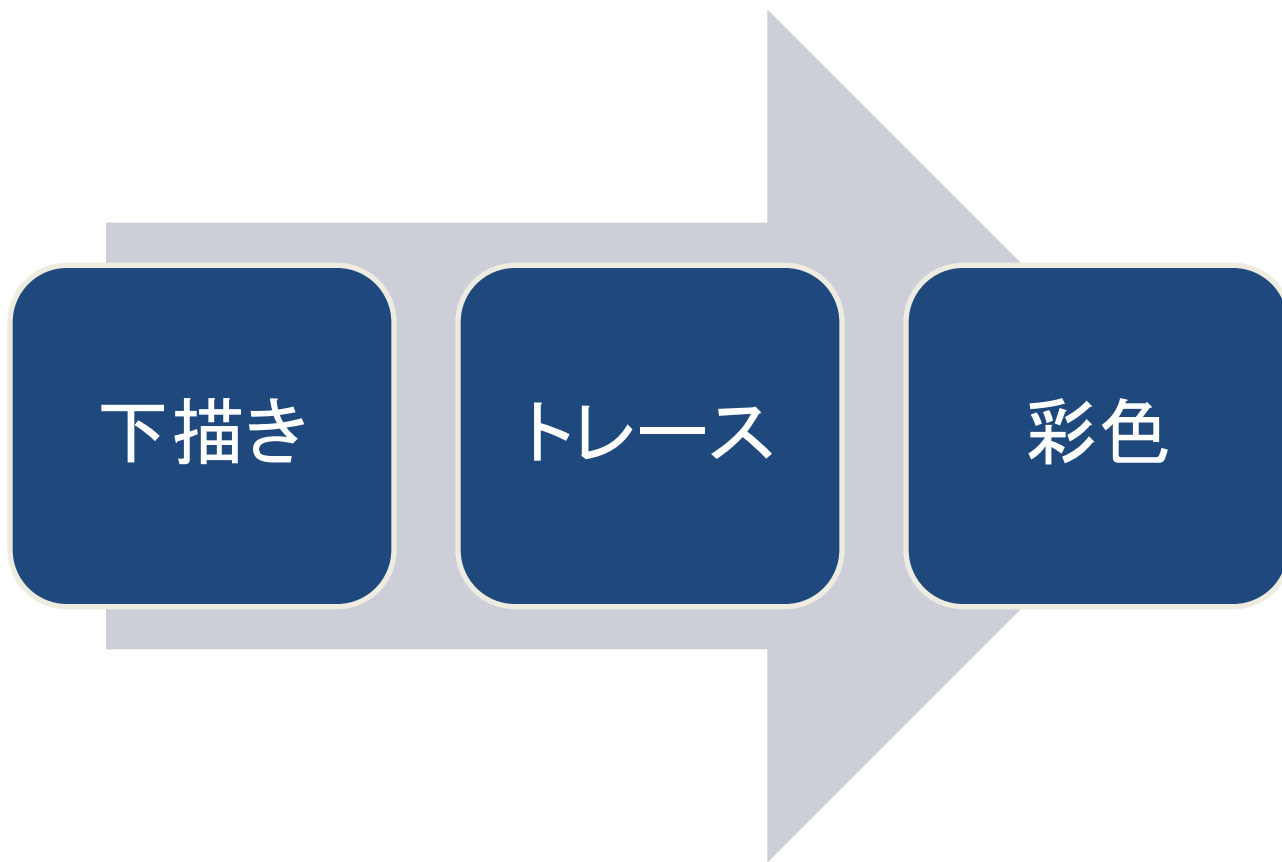
②

受付の扉からトイレ扉に
向かっての面には動物が
大きく描かれていて、
そこに書かれている動物たちは、
受付向かいの壁に細かく描写されている。



③

制作過程について



完成





完成

2

1

現在👍印の時間帯の診察をしています

8:30~9:00	12:30~13:00
9:00~9:30	13:00~13:30
9:30~10:00	13:30~14:00
10:00~10:30	14:00~14:30
10:30~11:00	14:30~15:00
11:00~11:30	15:00~15:30
11:30~12:00	15:30~16:00
12:00~12:30	16:00~16:30

現在👍印の時間帯の診察をしています

8:30~9:00	12:30~13:00
9:00~9:30	13:00~13:30
9:30~10:00	13:30~14:00
10:00~10:30	14:00~14:30
10:30~11:00	14:30~15:00
11:00~11:30	15:00~15:30
11:30~12:00	15:30~16:00
12:00~12:30	16:00~16:30

予約外の方
■まで
お呼びしました

お呼びした際
不在だった方
■まで
お申し出ください

予約外の方
■まで
お呼びしました

お呼びした際
不在だった方
■まで
お申し出ください

小児科

患者さんへのお願い

診察室にいらした
お名前がコールを
おかけ下さい



子どもとの心と和む空間に

病院に来る子どもたちの不安を和らげたい。静岡赤十字病院（静岡市葵区）の小児科外来の待合室の壁に、静岡大の学生らが温かみのある動物のイラストを描いている。三月末の完成を目指して奮闘中だ。

（沢井秀之）

壁面にイラスト 静大生が制作中

七十六平方メートルほどの壁をキャンバスに描かれているのは、楽器を演奏したり望遠鏡をのぞき込んだりしているキツネやタヌキ、クマ。愛嬌たっぷりの動物たちが和やかな雰囲気を出す。待合室には「あったかーむ」と名付けた。

制作に取り組むのは約二十人で、多くが教育学部で美術を学んでいる。病院側が、子ども向けの造形教室を県内の病院で開いている静岡大教育学部の高橋智子准教授（四）に制作を依頼。昨年一月に学生有志によるチームが作られ、取り組みが始まった。

学生らは病院関係者からの聞き取りを基に三つのデザインを考案。外来患者や病院関

葵区の静岡赤十字病院

係者にイメージ図や模の一人、教育学部三年型を見せ、「男女とも楽しめる」「全体の雰囲気がいい」など、寄せられた意見からデザインを決めた。今年一月から下絵描きに取り掛かり、現在は週二、三日、平日夕方や土日を利用して、

水性ペンキでイラストを描いている。「暗い部屋が明るくなった」と好評という。プロジェクトチーム



小児科外来の待合室の壁にイラストを描く学生たち＝静岡市葵区の静岡赤十字病院で

静大生「外来の子笑顔に」

静岡大の学生が静岡赤十字病院（静岡市葵区）の小児科外来の壁画制作に取り組んでいる。「安心、想像、つながり、笑顔」をコンセプトに、子どもやその家族の緊張や不安を和らげる空間づくりを目指している。

（社会部・鈴木明芽）

静岡赤十字病院



壁画で安心の空間づくり

企画、制作に取り組むのは教育学部の美術教育専修と美術・デザイン専攻、地域創造学環アート&マネジメントコースの約20人。同学部の高橋智子准教授（41）の指導で2016年1月から、医師や看護師、保育士らに思いを聞くなどしてデザインを考えた。病院幹部へのプレゼンテーションを経て、今年1月から診療終了後の夕方や土、日曜日に制作に励んでいる。絵は温かみのあるパステル色で描かれ、さまざまな動物が登場する。内山晃輔さん（21）は「『動物たちは何をしているのかな』と考えながら、笑顔になってほしい。会話が生まれる場になれば」と思いを込める。完成は今月末ごろの予定。小児科の西沢和倫部長（53）は「病院を訪れる子どもにとっては待ち時間もつらいが、癒やされる絵ができればそうで楽しみ」と話した。

壁画制作に取り組む学生ら

静岡市葵区の静岡赤十字病院

市 絵 清 静 日、絵 90点を に寄贈 ら3人 清水市 雅宏教 渡した 書は御 蒲原（ 内7館 市内 する回 に、調 真絵本 歴史を 笑 のほ 静 携し を焼 会館 イベ て、 擁護 いや た。

Hapital Project

—静岡赤十字病院小児科外来における壁面制作プロジェクトの歩み—

展示期間：2/24(木)～3/16(金)

ギャラリートーク：2/24(木)15:00～



静岡大学附属図書館ギャラリー

2017.2.24 15:00～


上記の日程でギャラリートーク実施

まとめ及び課題

- 楽しさが生まれる空間づくりの可能性を互いに考え実現した。
- 地域の課題や思いを共有し協働することを通して、地域が抱えている課題を発見すると共にお互いの思いを受け止めた上で、関わり方や解決プロセス及び方法を検討するきっかけとなった。
- 地域の医療(病院・小児病棟)と教育の役割や願いを共有し実現する中で、新たな思いをつないでいく機会となった。
- 病院が抱える課題解決の方法の例(モデルケース)を示せた。



- 「もの(壁面)」の制作のみにとどまらず、「もの(壁面)」を活用して今後どのような「こと」を生みだしていくのかを考える必要がある
- キッズルームなどの更なる環境整備の実現など



謝辞

平成28年度「地域連携応援プロジェクト」に採用・助成いただいたこと、また本プロジェクトに関わっていただいた静岡赤十字病院の関係者の皆様に感謝いたします。